

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

The Effect of Parental Age on Child Development: Insights from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

出産時の両親の年齢が子どもの発達に与える影響:エコチル調査

ユニットセンター(UC):福岡ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:産業医科大学サブユニットセンター

発表雑誌名: Research in Developmental Disabilities

年: 2024

DOI: 10.1016/j.ridd.2024.104741

筆頭著者名: 福田 智文

所属 UC 名: 福岡ユニットセンター

目的:

出産時の両親の年齢が子どもの36か月時の発達に与える影響をJapanese translation of Ages and Stages Questionnaires, Third Edition (J-ASQ3)を用い調査する。

方法:

エコチル調査の3歳時固定データを用い、単体で出生し、出産時の両親の年齢とJ-ASQ3質問紙の回答のあった親子を対象とした。父母の年齢はそれぞれ単独と両方について検討することとし、それぞれ25歳未満、25-29、30-34、35-39、40歳以上の5グループに分類し、25-29歳を参照として、子どもの36か月時のJ-ASQ3の5領域のカットオフ値未満をとるオッズ比を算出した。共変量は父と母の最終教育歴、喫煙状況、年収、子どもの性、母乳授乳期間とし、欠損値は多重代入法で代入後ロジスティック回帰分析を行った。媒介分析を用いて父母の年齢と子どもの発達及び共変量の関係を分析した。

結果:

72,606組の親子が対象となった。父母の年齢単独、両方を共変量と共にロジスティック回帰分析に投入した結果、父母共に30-34歳、35-39歳、40歳以上でJ-ASQ3の5領域でカットオフ値未満となるオッズ比が高かった。媒介分析では、母の年齢が高いと高学歴・年収となり、現在の喫煙が少なく、これらが年齢と子どもの発達の関連を媒介していた。父親の年齢が高いと年収が高く、年齢と子どもの発達の関連を媒介していたが、教育歴と喫煙状況はこの関連にほとんど影響していなかった。

考察(研究の限界を含める):

父母共に高齢であることで、子どもの36か月時の発達遅滞(J-ASQ-3のカットオフ値未満)と関連していた。この影響は年齢が上がるほど大きく、父母でほぼ同等であった。母の出産時年齢は子どもの36か月時の発達の遅れと関連したが、年齢が高いと教育歴と年収が高く、喫煙が少ないことで、年齢と子どもの発達の関連に良い影響を与えていた。父の高年齢は高年収と関連し、子どもの36か月時の発達に良い影響を与えていたが、教育歴と喫煙状況は年齢と子どもの発達の関連にあまり影響していなかった。本研究は質問票に基づいた調査であり、両親の年齢がJ-ASQ3に回答していない参加者は若い年齢層に多く、偏った結果になっている可能性がある。

結論:

父母問わず、年齢が高いほど、子どもの36か月時の発達は全ての評価領域でカットオフ値未満(精神神経発達の遅れ)となる頻度が高かった。夫婦ともに出産年齢を考えることは重要であることが示唆された。